

いちき串木野市温室効果ガスの排出傾向（2020年度）

本市では、地球温暖化対策の推進に関する法律第21条に基づき、2009（平成21）年度に「いちき串木野市地球温暖化防止活動実行計画」を策定し、市で実施する事務事業について、環境配慮の徹底や温室効果ガスの排出抑制などを図ってきました。

本計画は、そうした前計画を踏まえ、「低炭素社会」を築くため、市が率先して取り組むことが責務であるとの認識のもとに、本市が達成すべき目標を定めたものです。

計画の期間は、2019（平成31）年度から2030年度までの12年とし、達成目標については2013（平成25）年度の実績を基準に設定します。また、概ね5年で本計画の改訂を行います。

これまでの市全体の温室効果ガスの変動を見ると、2020年度は2013年度と比較して、約-12.3%、2016年度と比較して、約-3.0%削減されています。

表1 温室効果ガスの排出傾向と削減目標

項目	2013年度 (基準)	2016年度	2018年度	2019年度	2020年度	2030年度	主な発生源
二酸化炭素 (CO ₂)	5,792	5,224	5,180	5,112	5,055	3,236	電気使用、燃料使用、自動車燃料
メタン (CH ₄)	49	46	47	46	47	43	自動車走行距離、一般廃棄物焼却量、下水処理量
一酸化二窒素 (N ₂ O)	269	254	260	257	257	252	
合計	6,109	5,524	5,486	5,415	5,359	3,531	
2013年度 (基準円)比	0.0	-9.6	-10.2	-11.4	-12.3	-42.2	
2016年度比			-0.7	-2.0	-3.0		

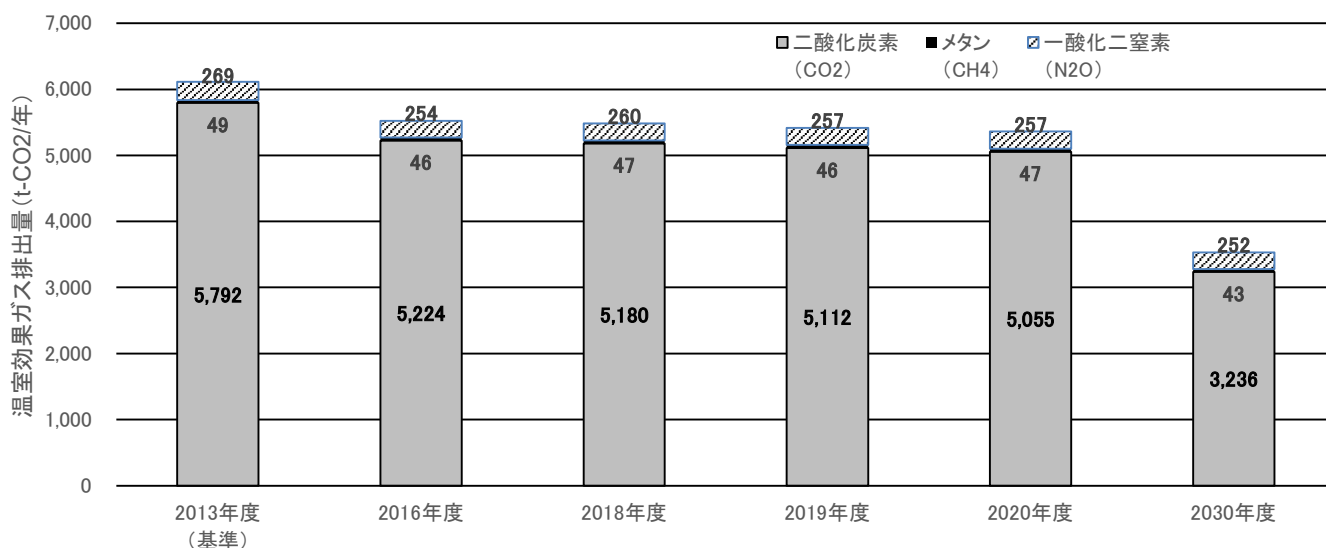


図1 温室効果ガスの傾向と削減目標

補足

(1) 二酸化炭素排出量(CO₂)

二酸化炭素(CO₂)排出量は前年度比、約-1.1%削減されています。

この要因は、各施設においてA重油及び電気を除く燃料の使用量が減少したためと考えられます。

A重油使用量は前年度比で-72.5%と最も減少しました。その理由は、市来学校給食センターが学校給食センターへ統合され、LPGへ代替されたためです。

また、電気使用量は前年度比で約1.0%増加しておりますが、CO₂排出係数が小さいこと及び他の燃料使用量が減少したことにより、全体の二酸化炭素排出量(CO₂)は減少しました。

(2) メタン(CH₄)・一酸化二窒素(N₂O)排出量

メタン(CH₄)排出量は前年度比、約1.8%、一酸化二窒素(N₂O)排出量は約0.1%微増しました。

その要因は、下水処理量が前年度比で約3.3%増加したためです。